

校友会誌



平成 17 年 3 月 9 日

発行

名古屋工学院専門学校校友会

名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

< 第 46 号 >

伝統凛と受け継ぎて

会長 倉田 豊行

わが母校が開学され50余年。卒業生は5万6千名余りとなり、名実ともに西日本随一の学校となりました。

また、昭和二十九年に発刊された同窓会誌「かもめ」(後に校友会誌として創刊)も第46号を数え、母校と卒業生を結ぶ心の絆となっております。

私は今年度、大阪支部総会には伊与田先生(幹事長)、三重支部役員会には下里先生(支部担当)、そして東京支部総

無限に広がる『創造』への扉

校長 小川 明治

二一年一月以降、景気回復の上昇局面にあると言われながらも、昨年十一月に発表されたGDP成長率は、二期連続して微増に留まりました。

米国の財政・経常収支の赤字、そして急速な円高、原油高などを背景に、わが国経済は、まだ難しい局面が続きます。わが国が、近年先進国の中でリードしてきた半導体、そして液晶表示装置(LCD)。この分野でも技術的・価格の追い上げが迫ってきているようです。産業構造は、ITとともに、日々ポータ

会には池戸先生(副会長)とともに出席させていただきました。

出席された卒業生の方々は、昭和三十年代に卒業された方々を始め、国家公務員及びその外郭団体、自営業、電気・電子・情報関連企業などに勤務されており、学生時代の先生方の想い出、寮生活など懐かしい想い出話に花が咲きました。

皆様、異口同音に、卒業生として母校を誇りに思っていること。母校の教育内容が優れていて、良き後輩が陸続と続いていることなど雄弁に語られ、汗顔の思いで拝聴致しました。

私も母校に残った教師の一人として、

レス化、進化していきます。高付加価値を生み出す創造力がますます必要になってきます。

経済学者ポール・サミュエルソンがその「世代重複モデル」の上で紹介した価値創造性のこと想起されます。最初に無の状態から有を創造した者が得る利得は、シニョレッジ(貨幣発行者利得)といわれます。一見、何も無いようなところから価値を創造し、形ある現実のものとして利得を享受することです。先端技術開発者が知的財産権を得て、そこから莫大な利益を享受することと置き換えてもよいでしょう。

それでは創造性への入り口、扉はどこにあるのでしょうか。いつも前向きにあ

より一層使命感に燃え、社会に役立つ有為な『従藍而青(じゅうらんにしよ)』：青は藍より出でて藍より青し。：の如く、教師を遙かに凌ぐ人材を輩出したいと決意を新たに致しております。校歌の一節に次のようにあります。

『伝統凛と受け継ぎて

ああ永遠に栄え行く

我らの母校 幸よあれ

若き前途に 幸よあれ』

母校が、在学生そして卒業生の灯台として、今後も光彩を放ちつつ、意気軒昂と前進し、永遠に栄え行くことを願ってやみません。

る目標に向かって努力し続ける人の、瞬間的な時間の中に見つけられるかも知れません。洞察力のともなった、研ぎ澄まされた眼です。ノーヴァリスが、「人間はあらゆる瞬間に超感性的な存在である」として、「無限の眼」として超感論的視点と呼んだのも理解できます。また、ヘーゲルも超越論的直感として同じような視点のあることを指摘していることには興味がもてます。

瞬間的な時間のなかから、無限に広がる創造性への扉が、いつ見つかるかもしれません。

そのために、いつも夢をもち、目標をもち、理想を追究し、努力を続けることが必要でしょう。

『カルチャーショック』

電子工学科49年卒 伊藤 勝己

カルチャーショックありますか？

私は、電子工学科49年卒の現職英語教員です。卒業数年後、カリフォルニア州に4年ほど留学して、帰国後から気になりだしたカルチャーショックについて触れてみたいと思います。

留学の数年間のブランクの後、常滑駅から神宮前駅に向かう名鉄電車の中で、車窓からの景色が大きく変化しているの、隣の席に座っていた女性に『この辺も景色が変わりましたねえ』と声を掛けました。するとその女性は、逃げるようにして席を立って行ってしまつてはありませんか。その日の10日ほど前まで住んでいたロス・アンゼルス街では見知らぬ人に天気でも、世間話でも、何の気兼ねもなく声を掛けていました。しかしここでは通勤電車の中で、見知らぬ人との世間話がタブー視されていることに気づかなかつたのです。

カルチャーショックと言えば外国または外国人との関係に限定されると思つていたのですが、日本人どうしであっても、地域や世代や職種や性別などによるカルチャーショックが氾濫していると、私自身は感じています。ネットやメールの世界がまさにその格好の入り口であると言えます。私が「追っかけ」と

いう呼び名でひと絡げにしてきた人たちの一人と、メールを頻繁に交換する機会が与えられたのですが、まったくの世界を見せられませんでした。未だに、毎日同じ空間を共有している通勤電車の客と会話を交わしてみたい衝動に駆られることがあります。ところ変われば誰もが生きていることなのに、なぜ、ここではしないのか。また答えは見つかつていません。

私は妻に死別されてから、余儀なく独身生活に甘んじてきました。今では新しいパートナーを求めるほどにまで元気になつたのですが、その経過においてはパートナーに家事を期待することなどは昔の夢物語であることを、身をもつて体験させられました。

皆さんの中にも毎日がカルチャーショックの連続だ、と思われる方はいらっしゃいませんか。

(ito@achi-bc.jp)



『ゲームはモノづくり産業』

マルチメディア系主任 根岸 雅己

十二月に入り携帯ゲーム機2機種が任天堂・SONYと誰でも知つている国内大手2社から新発売となりました。

新聞などに取り上げられた事もあり御存知の方も見えだと思えます。国内の携帯ゲーム機市場は、任天堂がほぼ独占していましたが、SONYの参入により、活発な競争が行われることが予測されます。本校では、数年前よりゲームやCGなどの制作に関する教育を行っている関係上、このように市場が拡大することは大歓迎です。

先日、通常では企業秘密の厚い壁に阻まれて見学することのできない、開発現場を見学させていただくことができました。見学した企業は、日本を代表する会社でした。広いフロアを肩の高さのパーティションで区切り、そのブース内では個々の社員が思い思いのスタイルで開発業務を行っていました。コンピュータやゲーム機本体などの開発機器以外に、ぬいぐるみや甲冑などクリエイティブな精神を刺激するようなモノが所狭しと並んでいました。ちょうど、本校の卒業生も見学した部署で勤務しており、見学をしている際に気軽に声をかけてくれました。卒業生が作った商品が、多くのユーザに喜ばれていることを考える

と、教員冥利に尽きる一瞬でした。

見学後、人事担当者と言見交換を行い、印象に残った事が2点あります。1つは「専門技術以外に必要な要件は？」という問いに対して【コミュニケーション能力】と返ってきたことです。ゲーム開発の現場という、孤独に制作する雰囲気があると思われていますが、実は全くの正反対で、それぞれの意見を活発に戦わせ自社の製品を最高のものにしよつと努力しています。通常の企業と全く同じ能力を必要とされているようです。もう1つは、【わが社はモノづくりをする企業である】と話していたことです。先日発売されたゲームは(すなわちハードウェアではなく、いわゆるソフトウェア)であり、日本を代表する産業のひとつであると話していたのが強く印象に残りました。本校も様々な【モノ】を作る教育を行っています。その中で、我々の行っている教育も【モノづくり】であり、やはり日本を支える産業のひとつであると実感しました。



平成十五年度

校友会事業経過報告

年月日 事業内容

15・5・26 校友会常任役員会開催

15・6・28 校友会支部長総会開催

15・9・13 校友会沖繩支部総会開催

15・10・3 校友会奨学生に奨学金
貸与(6名)

16・3・9 校友会賞賛賞者決定・
授与(25名)

16・3・9 校友会誌「かちめ45号」
発刊

16・3・31 同会誌(一四九六通)発送

15・4・16・3 卒業生による在校生へ
の講話

15・4・16・3 校友会館運営

各支部長

および支部連絡先

東京支部長 新川 美浩

五十六年第一部電波通信学科卒

勤務先・警察庁

連絡先・新川 美浩

自宅・千葉県千葉市美浜区高洲

四一四三〇五

電話・〇四三(二七八)九〇二五

大阪支部長 田邊 和哉

四十七年第一部電子計算機科卒

勤務先・田邊ホーリング調査工業(自営)

連絡先・田邊 和哉

勤務先・田邊ホーリング調査工業(自営)

大阪府茨木市沢良宜西四丁目

一一一四

電話・〇七二(六三四)一〇九四

富山支部長 山口 勇

三十四年第一本科学卒

連絡先・山口 勇

自宅・富山県魚津市新宿八二一

電話・〇七六五(二二)二〇九六

石川支部長 坂本 守

五十二年第一部電子工学科卒

勤務先・㈱エフエム石川

連絡先・坂本 守

自宅・石川県河北郡内灘町向栗崎

五九八一

電話・〇七六(三三七)四五七八

福井支部長 山崎 利治

四十年第一部電気通信科卒

勤務先・北陸通信工業㈱

連絡先・小林 則夫

勤務先・則武エンジニアリング㈱

電話・〇七七六(三三六)九三三二

(活動休止中)

三重支部長 瀬崎 雄司

三十七年第一部電気通信科卒

勤務先・進栄電子㈱

連絡先・瀬崎 雄司

自宅・津市野田二 四〇四

電話・〇五九(二三七)二二七九

四国支部長 松浦 正昭

三十四年第一本科学卒

連絡先・松浦 正昭

自宅・香川県綾歌郡綾南町滝宮

一四〇六五

電話・〇八七八(七六)〇六〇七

沖繩支部長 上原 盛善

四十九年第一部電波通信研究科卒

勤務先・国土交通省大阪航空局

那覇空港事務所

連絡先・上原 盛善

自宅・沖縄県豊見城市宜保四四

豊見城住宅四 三〇二

電話・〇九八(八五〇)四五四六

二十六期校友会常任役員

会長 倉田 豊行

副会長 坂田 和義

副会長 池戸 博行

書記 堀内 豊

会計 石黒 誠

幹事長 伊与田 茂

幹事 井東 秀樹

幹事 根岸 雅巳

幹事 杉村 博行

幹事 村岡 好久

幹事 下里 充

幹事 岩井 敬典

幹事 武田 善之

幹事 土肥 和紀

幹事 木下 幸弘

幹事 隈元 良一

幹事 松田

会計監査 伊藤 真二

会計監査 内山 長久

相談役 小川 明治

参与 小川 孝

各支部担当

東京支部 池戸 博行

大阪支部 岩井 敬典

三重支部 下里 充

富山支部 土肥 和紀

石川支部 佐々木 昇

福井支部 松岡 昇

四国支部 高須 真人

沖繩支部 堀内 豊



学園あれこれ 二二五

世の中いろんなものが流行る。健康ブーム、冬ソナブーム、ファッション界、音楽界、政界に至るまでいろんなものが流行る。

年末に流行語大賞なんてものが世間の注目を浴びる。まあ、いろんなものが流行っても、家庭田満、これが一番

愛妻家、恐妻家、これからはまる人夢を持つ人、追っ人、いろんな人がいいんじゃないの。でも『負け犬』にだけはならないように。

さて、わが学園を振り返ると・・・佐藤先生が趣味で飼育しているカブトムシが奥様の悩みの種。小バエが明るく綺麗なマンションの部屋の内外を飛び交い、さらには、脱走した東南アジアや南米産の高級カブトを奥様が踏ん付けてしまった。その上、日頃から幼虫の糞の処理問題で、奥様に全く頭が上がりません。

それを聞いた村岡先生「山当てよう」と目論んだ。問題の糞を譲り受け、大きな袋にいっぱい詰め込み、帰宅、奥方に「これこそは、滅多に手に入らない高級ガーデンング肥料だ。運良く手に入ったから立替えといた。」と、ビール代をせしめた。「カーッ！ うまいっ！、わが策もつまいいっ！」

そして季節は移ろい新緑の頃、庭に

立つ奥方は首を傾げることしきり、「えねえ、あなた？」に策士は狸寝入り。が、ばれるのも時間の問題。

さて、『自己責任』をどう取るか。学園祭での「コマ、各務先生率いるクラスでたこ焼き屋を開店。あがった利益でドンチャン騒ぎの予定だったのだが、何の手違いからか一日目の昼過ぎでもまだ試作の段階。西隣のお店は、満員御礼。閉店後の片付けをする背中に哀愁が漂い、顔はこわばっていた。そんな各務先生、売るより買っ方がよしいように。

最近、BMWを購入された。愛車の洗車に余念がなく、毎日のようにドライブを楽しんでおられる。しかし、ナビゲートは女性の美しい声だがシートは空っぽ。声はすれども姿は見えず、『って言うじゃない・・・残念！』

村岡先生は健康づくりに水泳を此処何年も続けておられるのだが、最近はずいぶん忙しくて、プールへも行けず、胸回りの寸法は増加の一途。

それなら、お風呂の中でと、なかなか減らないお腹の脂肪を波打たせ、『チョコ一気持ちいい！』と雄叫びを連発。近所

のヒンシユクをかっている。

夫が健康で元気に働けるのも、妻の内助の功があったればこそ。それぞれの家庭に秘策をお持ちのようである。

岩井先生は5年間毎朝バナナを1本食べておられる。どんなバナナがおいしいか一目見ただけで分かるそう。夫婦してバナナ評論家とか。

中島修志先生は、毎日黒酢を水筒に入れてご出勤。昼食は玄米ご飯の愛妻弁当「殿、よく噛んでゆっくり食べて下さりませ。」うーん、愛が聞こえる。

佐々木先生は石をためないよう、予防のために毎日1リットル以上のお茶を飲ま(さ)れている。以前はウーロン茶、今はそば茶のようだ。こちらには、まだまだ動け、って感じかな。

荒木先生はスタミナ料理で、野球など様々なスポーツに現役バリバリの活躍。その姿に夫人はうつと。『やっばり、ス・テ・キ！ キャハッ！』やっとな。

神谷先生の弁当は意外と小さいらしい。それでも『気合だー！』の掛け声一つでパワー全開。愛用の自転車のペダルが見事に折れてしまった。『お弁当のおかず、もっと減らしてもいいかしら。』

減らした分を修理代にまわす？情報システム系職員の平均年齢を計算した人がいる。なんと39才を超えて、あと少しで40才。

ずいぶん高くなったものだ。まさか『中二階』の人達ってわけでもないか。勿論、先生方のパワーは衰えるどころか、まだまだいくぞといった感じだ。

伊与田先生が重責から解放される一時を、ネットゲーム(マジシャン青龍)でストレス発散、はまっている。もつすく愛知県下1位(全国10万人くらい)。「マスターと呼んで」と、しつこく付きまとつ。

現在はA1リーグで、その上にはスーパーリーグ、大青竜リーグとあるそつで制覇を狙っている。伊与田風『サプライズ』

長崎先生は、趣味の一つに登山があり、週末になると、あつちの山に、こつちの山に登っておられる。熊には気をつけてほしいものである。『セカチユー』ならぬ『山の頂上で愛を叫ぶ。』誰に？ 熊に・・・。

妻とともに此処まで来ました教員生活30年の数学家の尾上先生は、様々な数式を駆使して株の動向を研究していらつしやる。今度はこの曲線から値上りするとか、値下りするとか、チェックに余念がない。

『新規参入』の動向は如何にや。去年の流行語大賞を織り交せてみたが幾つ思い出されたらうか。

今年は皆さんの流行語を期待しつつまた来年。(優良可)

聞き上手は上手に 自分で

『ハンドメイドマルチメディア』

「インターネット」「インタラクティブ」、この言葉を目にしたとき、新しさを感じる人は少なくなつた。それだけマルチメディアが一般化し、高機能なPC環境が生活の一部となつたということであるが、一般化したために求められる技術は更に高くなり、必要とされる人の力も多く、多岐にわたるようになってきている。

卒業生の多くも、社会のマルチメディアを支えるため、映画用のモーシヨンキヤプチャ・ネットワークゲーム開発・サイト制作・広告デザインなど様々な分野で技術力を発揮している。

活躍する先輩たちの後に続けと、日夜努力を積み重ねる在校生。彼らの技術力も販売されている。

はがき作成ソフトのコンテンツに多くの作品が採用されたり、お馴染みとなつたカラオケの背景アニメーションでは賞金が昨年の3倍以上(一般社会人の初任給の6割程度)にまで跳ね上がったりと、高い評価を頂けるようになった。制作の手法は、その発展に伴い作業量

が増えていくだけで、道具が速くなつてもPCを利用した「手作業」であること是不変である。

押しも戻らない左ボタン、弾け飛ぶCtrl、磨り減り文字が薄くなつたX、C、V、A、これが彼らのPC環境

(トリプルクリック)



『e-BP』

e-BP (e-Business Producer) というIT時代に求められている資質をどこで知らうか。

e-BPは、インターネットとデータベース技術の進展で可能になつた、新たなビジネスモデルを考案し、推進する役割を担う。

この資質を養成するために、情報技術の知識と技術の習得だけでなく、ビジネス面の知識とプロデューサーとしてのマインドを意識付ける講座が開かれるよ

うになつてきた。

この流れに対応するため、逸早く本校でも本年度からe-BP関連の授業が開講されている。

情報系の技術については資格取得状況からお分かりのとおり、(ソフト開発合格者日本一!)など、数多くの学生が、各種の資格を取得している。従つて、技術面は問題無しといったところである。

しかし、それをビジネスに結びつける「儲かる仕組みを考案し、経営者に提言する」となると、今まで学んできた理系の頭を切換え、文系の頭が必要とされるため、受講した学生には当初戸惑いがあったようだ。

テーマに基づいて、グループ単位のディスカッションを通して、アイデアを練り上げ、最終的に結論をまとめて発表していく。この過程を重ねていくうちに、他の班の発表を聞いて、なるほどそんな考えがあるのか、思わず「やられた!」と唸らせるようなアイデアも出てきた。

今の時代に、またこれからの時代に、必要とされる資質が示されているのならば、これに素早く対応することが必要である。

e-BPについても、授業で経験したことを基に、発想することを継続してくれば、やがて著名なe-BPとして名が知られるような方が、卒業生から出てくることだろう。(N.S.C.M)

『これが情報通信系だ!』

情報通信系は、学習分野によって目標は異なっているが、それぞれの学生が努力し、頑張っている。

そして、数多くの好結果が出てきた。まず、今年度前期(四月から九月末日)の平均出席率が、上位5位中、1位デジタル技術学科一年が86.6%、3位メディアネットワーク科一年が85.9%、4位情報通信学科一年が82.2%、5位デジタル技術学科二年が81.6%と続く。これはまさしく驚異的な数値と結果と言える。

次に、今年度十一月末日までの退学等におけるドロップアウト者数である。情報通信系のドロップアウト学生数はゼロ。

この状態で年度末まで行けそうであり、これも立派な数値と結果である。最後に、就職内定状況である。就職難と言われる今年度も、該当の4クラス中、3クラスが十一月中旬に80%を達成、残る1クラスも十二月中旬には100%を達成した。

勿論、目標とする優良企業から多数が内定をいただいた。これも立派な結果である。

これらは、情報通信系が次年度へ是非継承して行きたい事項である。

(デジデジ)

『就職に強い電気設備系』

またまた記録更新！今年の第三種電気主任技術者の資格取得者は50名！これで50名以上の取得者を十一年連続で輩出した事となる。こんな記録は日本中探しても何処にも無い。

その結果を受け、就職活動も好調であり、優良企業への採用内定者が続出した。主な採用内定先はシャープ、川崎重工業、三菱重工業、JR東海、住友軽金属、中部電気保安協会など。

特に中部電気保安協会からは12名もの採用内定を頂いた。やはり、価値のある資格を取得すると就職に有利に働く事がわかる。優秀な教員がいて、それについて頑張る学生がいる。頑張つて資格が取れると、優良な就職先に内定できると、電気設備系では好循環が続いている。卒業生の皆さんが築いてくれた伝統を基に、この記録を伸ばし、在校生たちが望む優良企業への就職を決めさせてあげたい。

追伸 今年度の第二種電気主任技術者には、電気工学科二年B組の近藤浩文君が合格したそう。(テンシエンマン3)



『番組制作に学生が参加』

十月八日(金)にCSチャンネル・朝日ニュースターの「愛川欽也ハックインJ」(十月九日放送分)の収録に放送系の学生が、AD、カメラアシスタントとして参加した。収録はカニ料理のお店を使用して行われた。

スタジオと違ってセッティングも一苦労。本番では、会場内の雰囲気は一変し、ヒリヒリした中で収録が行われた。愛川欽也さんを中心に進められるトーク番組であるため、収録とはいえ取り直しは無し。

些細なミスも許されない緊張感の中での収録が2時間も続き、学生にとって貴重な現場体験となった。

さらに、九月二十八日(火)には中川商業高校で同校の文化祭において、体育館で行われたイベントの舞台進行、PA(音響)、照明のスタッフとして放送系の学生が協力、活躍した。

また、十一月二十七日(土)には私学をよくする愛知父母懇談会主催の「愛ひろげよう」オートムフェス2004 in niga、というイベントが東海高校で行われ、食堂で行われたステージと記念式典、平松愛里トークショーのPAを放送系の学生が担当した。

このように、今年の放送系は学外での活動が目立つ年となった。

今年度は愛知万博(愛・地球博)が開催されることもあり、学外での活躍がさらに期待されている。

(HOUSOU・D)



『工学院マウス、世界へ躍進』

また、今年もマイクロマウスが大躍進。学生大会八年連続九回目の優勝を飾った。此処までくれば、王者としての貴族にもオーラが漂う。

しかし、年々技術が進歩する中で、打倒！名古屋を合言葉に全国の学生たちも必死で挑戦してくる。負けられない。去年と同じでは勝てない。

先輩方が残してくれた膨大な資料を一から見直し、その上に新しさを積み上げていく。

大会前日はいつものことながら徹夜でハードのメンテナンス、ソフトのチェックで、夜明けとともに新幹線で東京へと乗り込む。

参加マウス43台中15台しか完走できなかったが、堂々1位(制御工学科二年竹本隆一君)と3位(総合制御システム科三年稲熊彰君)を獲得した。

社会人も参加する全国大会の決勝のシード権を取得。同大会でも8位と10位に食い込む大健闘。

学生大会優勝者の竹本君は、シンガポールで開催された国際大会(平成十六年十二月八日)に日本の学生代表として招待された。この大会は、主催者側が用意したロボットを使用するためソフトウェアの勝負となる。

送られてきたマニュアルは、もちろん英語。更なる奮闘が続いた。

竹本君は、海外渡航は初めてであり、何もかも初体験。日本から単身シンガポールへ乗り込み、さぞや苦労も多かったことと察するが、歓迎レセプションでも日本代表として、国際交流の一翼を担い、その責任を立派に果たした。

そして、大会結果は第4位。

お土産にももらったマライオンの手ヨコレットに、国際人として成長した竹本君の奮闘と成果を感じ、心地よい甘さが口いっぱい広がった。(口本吉)

平成十六年度

母校の主なできごと

今年度は、新潟中越地震を始め各地で大きな地震が起きたり、台風による水害や土砂崩れなどが起きたりした。本校でも実家が水害にあった学生がいたり、体育祭が雨天のため中止になったり、影響を受けた。そこで学生会が中心となり募金を行い、新潟やスマトラへ送金した。天災は忘れた頃にやってくる。我々もいつ災害に出会うか分からない。助け合いの気持を持って行動しよう。

4月9日(金) 入学式
4月12日(月) 始業式
4月18日(日) 情報処理技術者試験
4月22日(木) 第一回・県人会



5月11日(火)～10月8日(金) 昼間部社会研修会/学科のブロックごとに、日程を分散して研修が行われた。
5月21日(金) 第一回・企業説明会
5月22日(土) 寮対抗球技大会/今年もボウリング大会が行われた。会場は堀田にある名古屋工スレーンで、白熱したシューゲームが繰り広げられた。優勝者は明治寮5階の情報総合学科二年の中川英治君。



5月23日(日) 工事担任者試験
6月6日(日) 第一種電気工事士筆記試験
6月9日(水) 第一回・企業説明会

7月2日(金)～19(月) 教育懇談会/長野・松本・金沢・飯田・福井・名護・宮古・富山・那覇・長浜・尾鷲・沼津・静岡・高山・浜松
7月15日(木)～8月4日(水) 八ワイ研修/昨年度はSARSやテロの影響で実施できなかったが、2年ぶりに実施できた。今年度の引率は情報系の舟橋先生だった。参加者は17名であり、そのうち9名が自分のクラスであった。統率の取れたクラス運営で、英会話研修も有意義に行われた。



7月25日(日) 第二種電気工事士技能試験
7月27日(火) 28日(水) 第一級陸上無線技術士試験
7月29日(木) 30日(金) 第一級陸上無線技術士試験
8月21日(土) 第一種・第二種電気主任技術者試験(一次試験)

8月22日(日) 第二種電気主任技術者試験/またまたやりました!今年の試験二種の取得者が50名となり、これで11年連続50名以上を輩出する事が出来た。教員も学生も良く頑張った。
9月14日(火)～17日(金) 第一級第一級総合無線通信士試験
9月26日(日) 電気通信主任技術者試験

10月3日(日) 第一種電気工事士筆記試験
10月17日(日) 情報処理技術者試験/今年度はテクニカルエンジニア(ネットワーク)に3名、情報セキュリティアドミニストラータに3名合格した。これにより5年連続で高度情報処理技術者の合格者を輩出したことになる。また、春期にはソフトウェア開発技術者試験に26名の合格者も輩出している。写真は高度情報処理技術者に合格した6名。



10月19日(火) 体育祭/毎年、雨にたたられる体育祭。前日までは晴れていたのに、当日は朝から雨となり、今年度はどつしよもなく中止となった。次年度こそは全種目こなしてみたい。
10月23日(土) 24日(日) 学園祭/今年のテーマは「輪」であった。今年度は五輪の輪に象徴されるオリンピックが開催され多くの感動を生んだ。在学生にとっては自分の人生の年輪を刻む大切な年である。またコンピュータやゲームの普及により、人とのコミュニケーションが薄らぐ時代に、より良い関係「輪」を築いて欲しいという願いを込めて付けられたテーマである。



11月6日(土) 第十九回・全日本学生マイクロマウス大会/今年の結果は優勝、3位という成績であった。これで8年連続、9度目の優勝となった。東京理科大学、東京電機大学、芝浦工大、電気通信大学の大学勢を含め43台のマシンが出走したが、それら大学勢を抑えての優勝であった。優勝した竹本隆一君(制御工学科二年)はシンガポールで開催される国際大会に出場する権利を得た。



11月13日(土) 14日(日) 第二十回・全国専門学校卓球選手権大会/男子ダブルスにおいて中西章暢君(電気工学研究科)参加のペアが準優勝、また団体戦では中西君参加の愛知県Aチームが準優勝と健闘した。
女子ダブルスでは佐藤祐子さん(総合制御システム科一年)参加のペアが準優勝、また団体戦では佐藤さんの参加した愛

知県Aチームが優勝し、4年連続優勝を果たした。中西君と佐藤さんが大活躍の年であった。



11月21日(日) 第二十五回・全日本マイクロマウス大会/世界各地からエントリーがあり、全日本学生マイクロマウス大会優勝者の竹本君が8位、また稲熊彰君(総合制御システム科三年)は10位と健闘した。彼らは日本勢の中では4番目、5番目という成績であった。竹本君にはさらに、特別賞が授与された。やはり世界の壁は厚い。

11月21日(日) 第一種・第二種電気主任技術者試験(二次試験)/工学院始まって以来の快挙!電気工学科二年B組の近藤浩文君が試験一種に合格した。試験三種は高校時代に取得しており、本校に進学して2度目の挑戦で合格した。コツコツ頑張った結果だ。おめでとう。

11月28日(日) 工事担任者試験
12月5日(日) 第一種電気工事士技能試験
12月19日(日) 全国専門学校ロボット競技会/今年度 優勝は逃したものの有線型部門において特別賞(ロボコム賞)を頂いた。
12月5日(日) ~ 7日(火) マイクロマウス国際大会/全日本学生マイクロマウス大会優勝者の竹本君が参加し、4位を獲得した。工学院も世界進出だ。
1月19日(水) 第一回・県人会
1月27日(木) 28日(金) 第一級陸上無線技術士試験
1月29日(土) 30日(日) 第二級陸上無線技術士試験
3月9日(水) 茶話会
3月10日(木) 卒業式
3月14日(月) 終業式
3月22日(火) ~ 25日(金) 第一級



第一級総合無線通信士試験

工学院

五、七、五、
七、七

応募総数53首 教職員の投票により、
22首を決定し、高得票順に掲載した。な
お、多人数の作品を掲載するため、重複
者には遠慮して頂いた。

今年度は、体育祭が雨でなされた事も
あり、定例の「体育祭」、「学園祭」など
の首題が多かった。また、地震や台風
プロ野球の話題もあった。

降りしきる 空を眺めて虚しさが

今年も雨が あー体育祭

下里 充

学び舎を 去つて始めて理解する

共に学んだ 友の大事さ

武田 善之

はよ帰れ 学生追い出す 我々も

職員室から 追い出され

吉戸 健朗

台風に 地震・猛暑で 大変だ

楽天的は 野球だけかな

荒井 智博

やる気さえ あればなんとか

してやるぞ 君らの望む夢を形に

大石 建児

学ぶのは 君のためだと語りた

どこ吹く風の 学生たちよ

尾上 行男

窓開けて 流れる景色 見て思つ

今年も流すか 巣立ちの涙

世古 哲也

プロ野球 あつというまに

様変わり

リーグ改め ITリーグ

古市 雅邦

若ければ 俺も行きたや

この会社 可愛や学生 就職相談

長崎 誠

合格の 夢を目指した 2年間

目標得ずとも 友情得れた

木下 幸弘

台風だ 今すぐ帰宅 連絡へ

外は大荒れ 中は晴れやか

小林 真治

ケータイを

字引がわりにする学生

手書きの文字までゴシック体

鈴木 由美子

来る日々 夢と希望を 失わず

社会に巣立て 若者たちよ

石黒 英二

こだまする ガム、オヤジギャグ

独り言 防音壁が 欲しい毎日

清水 義徳

被災見て 心痛める 日本人

ひとの善意が 胸にしみ込む

真野 雅彦

人間の 心の奥の 欲深さ

それを出す人 抑えられる人

岩田 正樹

台風の あまりの多さに

知識増え

職員皆にわか予報士

岩井 敬典

オレオレの 詐欺にかかるは

他人事と

思えはしない この先生

加藤 穰治

すし屋にて 回る大とろ 電験三種

努力しただけ 手が届くのだ

中野 裕史

就職だ

日がたつことにあせりだす

学生たちは のんびり構え

寺町 慶文

夢持てぬ 昨夜の我が 今はず

明日を夢見て 先進みつ

富田 重彰

青いボディ 学生育てて 早9年

当時の学生 もう直ぐ三十路

村崎 博樹



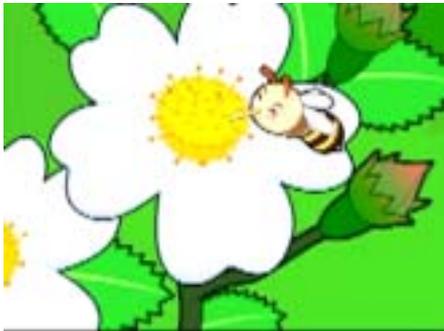
学生作品



明るさを抑えたライティングで西洋の独特な雰囲気や甲冑の質感が表現されている。



黒背景と反射させた床が白ベースのポリシエを浮き立たせ、迫力感が表現されている。



JOSOUNDのカラオケ背景画像、微量なクレーションを使い、ファンシーな表現の中にも立体感を出している。



JOSOUNDのカラオケ背景画像、ポップ調の背景とデフォルメされたキャラクターがうまく調和している。



アクションムービーのスナップ画像、背景から人間の動きまで細かく作りこまれ、躍動感がある作品になっている。



カーアクションムービーのスナップ画像、臨場感あふれる作品となっている。

ご結婚おめでとう

1つれこます

次のみなさんは平成十六年一月から平成十六年十二月末までにご祝宴を挙げられました。心からお祝い申し上げます。
(敬称略)

西川 裕 2月1日 挙式・松坂市

(平成12年3月・電気設備学科卒)

中田 久美 2月8日 挙式・長崎市

(平成12年3月・電波通信研究科卒)

矢島 徳明 3月14日 挙式・伊良湖岬

(平成14年3月・電業技術学科卒)

森川 智留 4月24日 挙式・安城市

(平成12年3月・電気工学科卒)

三浦 順 4月11日 挙式・宮城県

(平成11年3月・電波通信研究科卒)

仁池 麻衣子 5月29日 挙式・小牧市

(平成12年3月・情報システム科卒)

垣内 大和 6月26日 挙式・名古屋市

(平成14年3月・情報総合学科卒)

山崎 俊昌 10月24日 挙式・合歓の里

(平成16年3月・電気工学科卒)



校友会東京支部総会報告

校友会東京支部担当 池戸 博行

昭和四十九年一月に校友会東京支部が発足し、31年の年月が過ぎようとして

いる。校友会支部としては後発で、5番目の発足である。現在、多数の卒業生が関東地区に就職しており、東京支部に登録されている会員数は300名を超えている。

卒業生の皆さんは、総務省、警察庁、気象庁などの国家公務員として、また東京電力、東芝などの日本を代表する企業で通信、電気、情報の技術者として広く社会に貢献されている。

十月二十九日に支部役員のお骨折りにより、平成十六年度校友会東京支部総会が東京青山（ホテルフロラシオン青山）で実施された。当日は、14名の卒業生の方が出席された。学校からは、会長の倉田先生と支部担当の私に参加した。東京支部では2年ごとに総会が開催されている。今年も、仕事の都合で直前にキャンセルがあり、前回の総会より少なかった。

しかし、支部総会には、30代から40代のバリバリの方だけでなく、東京支部を先頭に立って設立した大先輩の方まで参加していただけたことに感謝したい。

総会には、8代目の新川支部長さんの進行で進んだ。

卒業生の方の自己紹介が順番におこなわれ、皆さんが今第一線で活躍されている様子が伝わってきた。また、卒業後の工學院の発展を誇りに思ってみえる。東京支部設立の目的は、卒業生の就職先確保であった。当時はオイルショックの影響で就職難の時代でもあり、卒業生の方々に東京での就職で、大変なご協力をいただいた。

第1回の総会には、30名が出席された。その後、毎年開催されて、多い時は40名から50名の方が出席されたこと。

東京方面からの入学生は少ないが、関東方面で働いている卒業生は多い。一時期東京と神奈川で支部を分けていたこともあった。会員数も多いが、転勤される方も多く連絡が大変。今はインターネットの時代なので、手紙よりメールや掲示板で周知することが多くなってきた。

今回の参加者の多くは総務省や警察庁等の公務員の方が多く、東京支部を支えている。首尾関係だけでも関東に45名も勤務されている。

特に、電波通信学科の卒業生が多い。「通信士を目指す学生の入学が少ないので、平成十六年度より通信士コースの学生募集はしていない。在校生の教育も平成十七年度で終了する。」と話をする

と、卒業生の方々は時代の趨勢として仕方ないと思っても、やはり残念な様子であった。

短い時間だったが、一次会にも参加させていただき、寮生活、校舎のこと、お世話になった恩師の先生の思い出など尽きることなく語り合っことができた。

次回開催時は、沢山の出席者があるよう支部活動の一層の発展を期待したい。



編集後記

工學院一号館一階に「デッサン室」がある。

当然、絵や彫刻が飾ってある。その中に、不似合いな言葉が貼ってあった。「人間」という字は、人と人の間と書く人は、一人では生きられないものだ。」

人は寄りかかって生きる。肩書き、財産、学歴、親の七光り等。さらに、他人の思想により、人生観まで寄りかかっている。それを何ら怪しまない。

「分かっているよ」って、どやっつけられそうだが、人が生きることは、自分の足で立ち、自分の耳目を酷使することだと思っ。

当たり前の事を、当たり前と知る事は難しい。知る事を行う事は、さらに難しい。しかし、生きるうえで一番大切な事は何だ。それを求めている原点が、教育にあり、工學院にある。

卒業生の皆様も思い出して欲しい。当時は、もがき苦しみ、それと同じくらい楽しんだ学生生活があった事を。

最後に、魯迅の言葉を贈りたい。「絶望の虚妄なること、まさに希望に相等しい」

きつといい事が待っている、そう信じて、工學院は頑張っている。皆さんも。(善)

人間は
人と人の間